

# 傾斜地の計画

センター課題の注意書きでは、「**傾斜地を考慮した建築物の計画**」が事前に公表された。

敷地が**傾斜地**であることと、指定平面図が、地下1階、1階、2階となっていることから、かなりの確率で、1階が傾斜地の上部(道路側)となり、その反対の下部が地下1階となると想定できる。その場合、傾斜地は、地下1階分の階高となると想定する。

## (1) 傾斜地

傾斜地の計画では、下記に留意する。

- ・高低差の敷地を活用した立体的な計画
- ・高低差によるアプローチ
- ・地下1階の処理(ドライエリア等含む)
- ・傾斜地盤の処理
- ・傾斜地での基礎構造
- ・傾斜地を活用した眺望対応

## (2) 傾斜地における建物計画

傾斜地における計画は、各階数を傾斜地に合わせてどのように計画するかということになる。

上文でも記載したが、一般的には、1階が傾斜地の上側(通常、道路で出入口、ロビー等)、反対側が地下1階となる。その場合、眺望等を考慮すると、傾斜は、南側から北側へ登り傾斜となると考えられる。しかし、選択肢としては、出入口が1階でない場合もある。

また、建物内の計画では、現実的に傾斜に合わせて平面図を部分的に段差処理することもある。しかし、試験問題としては、そこまで指定すると、かなりエスキースに時間がかかり、未完成する受験者が多くなる可能性もある。従って、建物内は、切り土により、地下1階と1階は、それぞれ段差のない平面計画となるものと推定する。

上記の通り、一般的なプランを想定すると、傾斜地上部が1階、傾斜全てを切り土して、地下1階は傾斜の下側(地下1階GL)になるものと推定する(下図参照)。

なお、配置図の指定があるが、1/200指定であることと、試験用紙の大きさから、1階平面図と地下1階平面図に、それぞれの傾斜における敷地を記載することになると推定する。つまり、配置図は、上半分が1階平面図に、下半分が地下1階平面図に記載するようになる。

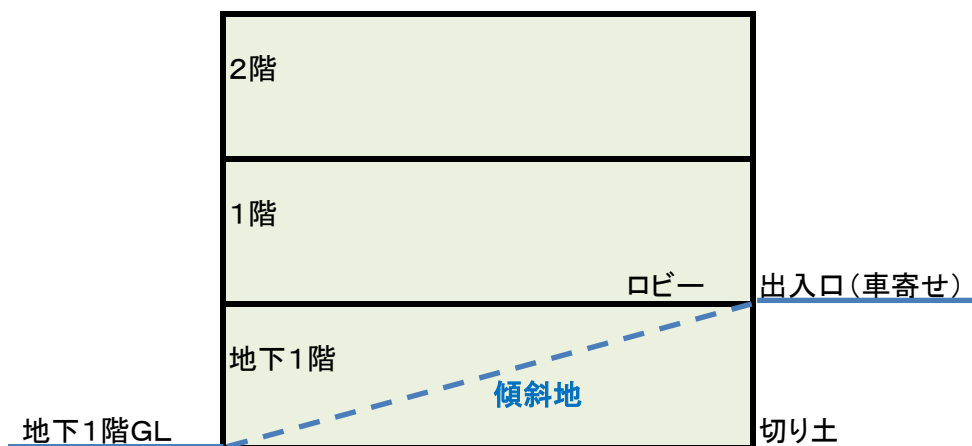


図1 傾斜地における階数の想定